

2021年10月31日

～「既存観光拠点の再生・高付加価値化推進事業」の取り組み～

富士山静岡空港を代表企業とした観光庁補助金活用事業 大井川流域観光拠点化計画始動

第1弾 顔認証 AI を用いた来訪者分析、人流調査の実証実験の開始

2019(平成31)年4月1日より新体制で運営を開始した富士山静岡空港株式会社(静岡県牧之原市)は2021(令和3)年8月6日に観光庁から「既存観光拠点の再生・高付加価値化推進事業」(事業者連携型)の事業者に採択されました。

本事業は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、危機的状況にある観光地域の再生に向け、地域全体で取り組む施設の改修等の事業を短期集中で強力に支援することで、新型コロナウイルスの影響を乗り越え、地域全体の魅力及び収益力の向上を図ることを目的としており、弊社を代表企業とし、複数事業を県内外の企業と連携し2022(令和4)年2月末日まで事業を実施するものです。

富士山静岡空港が位置する大井川流域周辺(島田市、牧之原市、掛川市、吉田町、川根本町)は、SL 運行をしている大井川鉄道や江戸時代に東海道最大の難所の大井川によって栄えた島田宿大井川川越遺跡等の旧東海道名所が現存しますが、各拠点間の連携、アクセス、地域コンテンツ磨き上げ、広域 PR 等の不足により、認知度が低迷しております。また、当該エリア訪問客も日帰り滞在に留まり、通年で宿泊を伴う消費を面的に取り込めていなかったという課題がございました。

今回、大井川流域周辺を観光圏と見なし、本事業の第1弾として顔認証 AI を用いた来訪者分析、人流調査の実証実験を、大井川鉄道の千頭駅・新金谷駅、県内最大級の体験型フードパーク KADODE OOIGAWA (かどでおおいがわ)、富士山静岡空港の全4拠点に本日、設置し、実証実験を開始いたします。

各拠点に設置したカメラから取得したデータを分析し、訪問客がどのように各拠点を回遊しているかを可視化し、性別や年齢層に応じたマーケティング戦略へのデータ活用の可能性にも期待しております。

第2弾以降は、民営化したことによる豊富なリレーション・コンテンツを有する空港が連携ホテル・観光施設との共同企画や、多拠点でのマーケティングを実施し、個人観光客向けに認知度・利便性・魅力向上に努めてまいります。

今後も様々な連携及び取り組みで静岡県の観光振興に力を尽くしてまいりますのでご期待ください。



▲顔認証カメラ(イメージ)
 株式会社トリプルアイズ社製、
 AIZE Research(アイズリサーチ)。



▲空港 設置状況



▲KADODE OOIGAWA 設置状況



▲大井川鉄道 新金谷駅設置状況

【参考】

※国土交通省 観光庁 HP

令和2年度3次補正予算事業 既存観光拠点の再生・高付加価値化推進事業の詳細 <http://kizonkanko.net/>

【空港周辺事業エリアマップ】



【設置拠点】



▲大井川鐵道 新金谷駅
大井川鐵道の始発駅。SLの顔を正面に向けるための転車台。



▲大井川鐵道 千頭駅
大井川上流部・奥大井の渓谷を走る日本唯一のアプト式列車、南アルプスあぶとライン(大井川鐵道井川線)。



▲KADODE OOIGAWA
2020年11月に開業した大井川流域の農業・緑茶・観光の魅力を発信する体験型フードパーク。



▲空のしおり-3776-
2021年4月に空港に誕生した静岡、山梨情報発信スペース。静岡の名酒、山梨の名ワインをワンコイン有料試飲が可能。



▲富士山静岡空港
2021年6月に開港12周年を迎え、静岡の空の玄関口として、地域観光振興のため各種事業を展開。

【富士山静岡空港の取組み 及び 大井川流域エリアにおける観光スポット】



▲富士山周遊フライトツアー
2018年11月よりフジドリームエアラインズ・大井川鐵道・富士山静岡空港の3社共同企画で開始し、延べ34回、約2,200名の参加。



▲大井川沿いを走るSL列車の風景
大井川鐵道は蒸気機関車の「きかんしゃトーマス号」や急勾配を走るアプト式列車を運行。



▲奥大井湖上駅の周辺風景
クールジャパンアワード2019受賞。南アルプスの山間にあり、湖に浮かんでいるように見える秘境駅。南アルプスあぶとラインも好評。